ンサイ それに化石等予期しなかったものが多かった。

(荒川九兵衛記)

田 鳥 採 集 記

今年の総合採採集会は小浜市田鳥に白羽の矢がたてられた。さて8月11日午前5時半、福井駅には伊藤先生をはじめ小林、島崎、酒井、田尻、伊藤十の各氏と小生、鯖江で堀館長が乗車され、早くも心は田鳥に飛び採集についての細い打合せがすすめられた。 小浜線大鳥羽駅に着いたのが10時過ぎ、バスの連絡までには時間がありすぎる、衆議一決全員海士坂をへて田鳥迄歩く事になった。8月の陽光は遠慮なく振りそそぎ、その暑い事。しかし総勢9名は路傍の植物に目を、愉快なジョークに耳をかたむけて唯歩くだけ。峠のトンネルをこえて見た田鳥の光景は、今迄の疲れを吹き飛ばしてくれた。ここ迄に見られた植物の主なものについて記述すると、イズキシダ，ハンゲ，ヌマトラノオ，ヤマモモ，ゴンズイ，アワブキ，スダジイ，アセビ，ソヨゴ，ウラジロ，アカガシ，シラキ，タブノキ，イソノキ，ハゼノキ等嶺北の植生とは全く其の景観を異にし、嶺北生まれの人間には珍らしいものばかりである。トンネルをこえてからの植物には、ヤシヤブシ，オオバグミ，ワカサハマギク，コマツナギ，マサキ，ヤブツバキ，アカガシ，シロダモ，シロヨメナ，テイカカズラ，オニヤブソテツ，ノガリヤス，クサギ，タンゴイワガサ，ケムラサキ，コウヤボウキ，ニシノホンモンジスゲ，アセビ，サンカクズル，ダンコウバイ，タチシノブ等が見られ、こちらの方は樹木がよく茂り、各樹尸の被度も大きい様である。

かくして一行は、田鳥の宿舎に落ち付き、昼食にした。おかずに出されたイナダの丸煮を見て、近頃の魚の出来栄えも想像出来る。この昼食もそこそこに各班に分れて採集にと出向いていった。堀館長、酒井先生それに小生の三人は、田鳥より須ノ浦の方に採集に出た。その間に見られたものにはキクバボクチ，コナラ，アブラギリ（栽培のためにきれいに下草がかられ、花時にはさぞ美しいだろうと思う。）ホソバカナワラビの群落、ウラジロノキ，クロモジ，ヒサカキ，ハリギリ，ホタルブクロ，ヒキヨモギ，ヤブレガサ，コバノカナワラビ，ヤブハギ，コクサギ，アワブキ，ホシダ，イヌシダ，ウリハダカエデ，アカガシ，トリガタハンショウズル，イヌシダ，ミゾシダ，ベニシダ，ミカエリソウ，ヒメワラビ，タジマタムラソウ，アカショウマ，サンインヒキオコシ，イボタノキ，ヨコグラノキ，キブシ，ソヨゴ，サイゴクミツバツツジ，クマヤナギ，ツルアリドウシ，タンドボロギク，クサイチゴ，フユイチゴ等が見られた。なおヨコグラノキは昭和8年の目録作製

の時、敦賀の天筒山にて２本だけみつかり、当時故田代先生が大変に喜ばれたとの事であるが、ここでは、非常に沢山採集出来た。午後５時宿舎に帰りつくと、そこには寒蝉、荒川、五十嵐先生の三人が遅れて着かれていた。例によって宿舎では各班ごとに採集品の展覧会と自慢話に花が咲き、非常ににぎわった。なお谷及、須ノ浦に於て２５m^2 のクオードラートをとってしらべてみた。

谷及　５m × ５m

	被度		被度
シラカシ	５	ヒサカキ	＋
ヤブツバキ	４	ニシノホンモンジスゲ	＋
センノキ	２	ヤブラン	＋
ホソバイヌワラビ	２	カヤ	＋
ヤブムラサキ	＋	ツクバネウツギ	＋
ミツバアケビ	＋		

シラカシの被度はほとんど全天をおおい５そのものと云った感じで、そのためか下草も非常に少なかった。

須ノ浦

	被度		被度
スダジイ	５	ガマズミ	＋
アワブキ	２	カヤ	＋
ヤブツバキ	２	ニシノホンモンジスゲ	｜
クマノミズキ	２	シシガシラ	＋
カラスザンショウ	１	イワガラミ	＋
ヒサカキ	１	ツクバネウツギ	＋
ヤブムラサキ	１	ミツバアケビ	＋
		ウラジロ	＋
		リョウブ	＋
		サカキ	＋

翌１２日も上天気に恵まれ瓶館長寒蝉先生と小生の植物班は荒川、酒井先生の鉱物班と途中迄行動を共にした。採集できたものには、ケンポナシ、アカシデ、イタヤカエデ、イヌシデ、アカシデ、ヤブツバキ、スダジイ、ニガキ、ナンキンナナカマド、ヒメヤシヤブシ、ニガイチゴ、クリ、クヌギ、バイカウツギ、ヒメワラビ、ミゾシダ　ヤマジノホトトギス、タニウツギ、エノキ、クズ、ヘクソカズラ、キツネノカミソリ（これは畠のふちに小規模な群落をなし花ざかりであった。）センニンソウ、タニウツギ、ホウノキ、ハゼノキ、ホツツジ、ガマズミ、ムベ、イソノキ、ソヨゴ　ヌルデ、ウリハダカエデ、ウスギヨウラク、コバノガマズミ、ウバユリ、サカキ、ヤマザクラ、ヤマモモ、アマズル、ヤマボウシ、ノササゲ、ヤブハギ、アキノキリンソウ、ヌスビトハギ、タンキリマメ、キクバヤマボクチ等で、リヤス式海岸特有の深い入江とすみきった海水は、かの洞や湖以上の光

景である。餘談ながらドライブ道路さえ完備すれば日本でも指おりの公園になれる事はほとんど間違いないだろうと思われた。我々は谷川の水で口を潤しなおも採集調査にはげんだ。オトコヘシ，ムラサキニガナ，ヤマニガナ，ダンコウバイ，ケムラサキ，オカトラノオ，コアジサイ，キモンヒヨドリバナ，タツナミソウ，イヌガンソク，ヤブハギ，ケヤキ，クジヤクシダ，ネジキ，シヤシヤンボ，ウラジロガシ，ウラジロノキ，イモノキ，アオハダ，　コハウチハカエデ，コシアブラ，カマツカ，クマシデ，モミジドコロ，オニドコロ，サワアジサイ，ニガイチゴ，トダシバ，オオバノトンボソウ，カキラン，サジガンクビソウ，マツブサ，コマユミ，ヤマイタチシダ，イヌコウジュ，ヒメミカンソウ，ササガヤ，イヌシダ，等で，こちら側には，昨日の様にヨコグラノキが目につかないのも特徴の一つかも知れない。路傍に腰をおろし，絶景をながめ涼風をあびながら昼食のひと時を過ごす。そして，さらに矢代の方に向けて採集を続けた。その間の採集品には，ミズタマソウ，ウシタキソウ，ダイコンソウ，ヤマシロギク，フモトシダ，ケジケジシダ，ハダカホウズキ，ヒヨドリジョウゴ，ミズタビラコ，イワガネソウ，チヤルメルソウ，フタリシズカ，コクサギ　スイカズラ，ムカゴイラクサ，ハシカグサ，ヤワラシダ，ニガクサ，コバノカナワラビ，ヤブニッケイ，オオツヅラフジ，オオバノイノモトソウ，イノモトソウ，タンゴイワガサ，　カワラナデシコ，オオバアサガラ，ハグロソウ，オニヤブマオ，ヒトツバ，キツネノマゴ，ミヤマミズ，ヤマアイ，ツルニンジン等がとれた。矢代までくると，風習が違い色々社会科的な見学も出来た。なお矢代近辺ではコタニワタリ，ホタルブクロ，キカラスウリ，トチノキ，ハナイカダ，フユイチゴ，ムクロジ，ウワバミソウ，ヒロハイヌワラビ，ノコギリシダ，ジユウモンジシダ，リヨウメンシダ，ノキシノブ，タブノキ，ヤブニツケイ，リンドウ，シロネ等が見られ，時に矢代の神社にはタブノキ，ヤブニツケイの古木が目をひいた。石灰岩上にはマメヅタ，ミヤマカタバミ，ホラゴケの一種の附着が見られた。この頃から雲ゆきもあやしくなり，雨も少々ふり出したので，採集品の整理も，そこそこに宿舎に帰えるべく用意をすすめた。しかし雨足は以外に早く，雨具の準備もないので，民家のひさしに雨やどりを餘儀なくされる破目になつた。そして夕立の晴れ間をぬって帰路についた。

翌13日は再びはれ渡り，雲一つない快晴にめぐまれ，某土建会社のオートバイで駅迄出た。今度の採集会で気のついた事は，嶺南に多く見られるアカガシが非常に少なく，又アラカシ，ヒメユズリハ，カゴノキ，ヒメイタビが見られなかつたのも特記すべき事であろう。

（竹内民男記）